

診療所だより

夏場の飼養管理

牛舎の温度管理に注意

牛は夏の暑さの影響を受け易く、気温二十七度以上で食欲や乳質に、また三十度以上になると繁殖にかかわってくるといわれています。和牛はわりと強いのですが、乳牛は特に弱いようです。

平地と山間地とでは気温差がある為、一様には言えませんが、温度管理にはどちらも十分注意する必要があります。



那須幸男さん方（椎葉村間柏原）

日射病と熱射病

夏の暑さで発病する代表的な病気に日射病、熱射病などがあります。

●日射病 炎天下で直射日光を受けて発病

●熱射病 高温、高湿の場所で体温が蓄積し放出できないうで発病

これらには発病の原因に違いがあります。直射日光が当たらないからと安心せず、牛舎に室内温度計を設置したり、風の流れなど考慮しながら常に牛舎を涼しくする工夫をしましょう。

●症 状 呼吸が速くなり、体温が四十一度くらいに上昇します。

●予防治療 通風の良い所に牛を移動させ足から頭部そして全身を冷やしてやりまします。食欲がない時はすぐに獣医師に相談して下さい。

通風換気を良くして

夏は暑さのため細菌が繁殖しやすいので、通風換気を良くしないとアンモニアガスが発生し、食欲減退や呼吸器病などにつながります。

牛の一日の糞尿排出量は、体重五百kgで一頭当たり糞二十kg、尿十kgほどです。発酵堆肥にすると病原微生物と寄生虫卵が死滅し、発酵することにより悪臭も消えて衛生的になります。

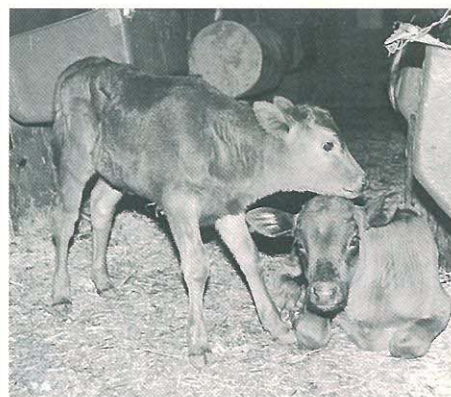


風通しの良い牛舎

害虫の駆除

この時期は害虫の刺咬による害が発生します。ヌカ蚊、アブ、ブユ、サシバエは種々のウイルス、細菌、寄生虫を感染媒介させますから、殺虫剤等を利用したり、獣医師の指示により予防して下さい。

暑さ対策、畜舎管理、飼料の給与等に十分気をつけて飼養管理を行ってください。



子牛はデリケート